4)開発の視点

本提案における10の視点

1.「新しい生活環境の提供」
都市→地方へ、新しい働き方生き方の変換期の中、移住者(新生活者)の受皿として住居・職場を整備し地方創生の役目を担う

2.「これからの商業施設のあり方」
モノからコト消費への多様性の時代を鑑みて、従来のインナーモール型(箱型)商業施設は必要ないと考えます

3.「地元産業の保全と育成」
地場産品(農産物・林産物・酒類)高速道路アクセス利用の日本海海産物の販売と活用・人材育成

4.「既存観光資源の活性化」
戸倉・上山田温泉・各所スポーツ施設を始めとする市内名所を結ぶ情報発信基地を設け観光再生の拠点とする

5.「文化的交流の場づくり」
アート・スポーツ・考古学に触れ、うるおいと豊かさをもたらす三世代交流の場を提供する

6.「新時代成長産業の誘致」
IT・AI主導の産業構造における新需要創出の為の研究所や製造企業を誘致し、住まう事と働く事の一元化を図る

7.「自然景観の保全」
「あんずの里」を含め里山風景を生かし市中心部とのバッファゾーン(緩衝地帯)として機能させる

8.「スマートタウン化」
地球的課題である脱炭素社会の実現に向け省エネ再エネ・分散型エネルギー供給に取り組む。エリア内通信インフラとしてのローカル5Gシステムの導入

9.「スマートインターチェンジの誘致」
上信越自動車道に隣接する当地は、更埴JCTにも近く、物流サービス基地には最適だと考えられる

10.「広域避難場所への整備」
公共残土を活用し、盛土による安全な土地形状の確保や物流・情報ネット・生活インフラが整った防災拠点の整備

③ 皆さまのご意見を募集します（図③：「意見募集」）

市は提案された「構想案」が市の上位計画等に合致するか内容を精査するとともに、**今後の市の対応を判断するため構想案に対する皆さまのご意見を募集します。**ご意見のある方は下記によりご提出をお願いします。なお、頂いたご意見は事業主体である準備会にもお伝えします。

【提出期間】 令和4年3月1日(火)から当面の間
【提 出 先】 直接提出する場合:千曲市役所　3F　建設部 地域開発推進室
ファクシミリ　:026-273-1517
電子メール　:kaisui@city.chikuma.nagano.jp
郵　送　:〒387-8511　長野県千曲市杭瀬下二丁目1番地
千曲市役所 建設部 地域開発推進室
【提出用紙】 任意　※ご住所・お名前(ふりがな)・電話番号をご記入ください。

←二次元コード読み取り
詳しくは地域開発推進室のホームページをご覧ください

～この通信に関するご質問・ご意見は～
千曲市役所 建設部 地域開発推進室
室長:青木猛治　係長:篠原哲哉　係員:伊藤孝雄
Email:kaisui@city.chikuma.nagano.jp
TEL:026-273-1111(内線3243・3244)

ひと・モノ・文化が交流し　にぎわいあふれる　まちづくりを目指して

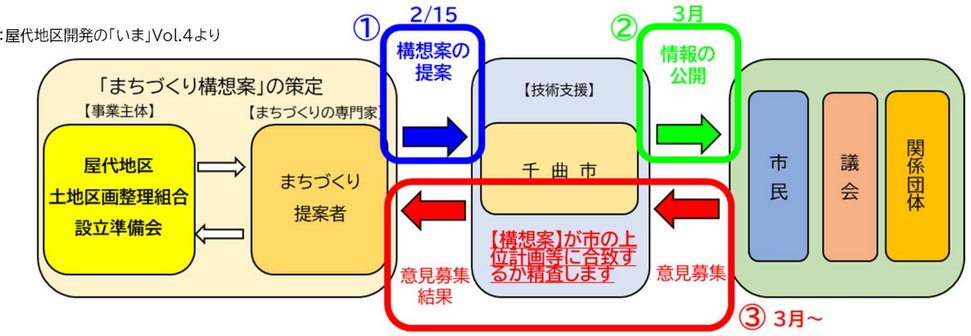
令和4年3月

屋代地区開発の「いま」 Vol.5

屋代地区開発の事業主体である屋代地区土地区画整理設立準備会(以下:準備会という)から、市に対して「まちづくり構想案」の提案がありましたのでその内容をお伝えします。

◎今後の流れについて（前号からのおさらい）

図:屋代地区開発の「いま」Vol.4より



① 市にまちづくり構想案が提案されました（図①：「構想案の提案」）

令和4年2月15日、準備会の林愛一郎会長から小川市長に屋代地区開発事業への支援要請と「まちづくり構想案」の提案がありました。林会長は『「屋代地区(上信越自動車道西側地区35ha)の開発を進めることは若い世代の移住や雇用・税収の確保につながり、千曲市全体の市民サービスの維持向上、ひいては地域活力創造の一助になる…」との思いから事業を推進してきた。引き続き市の支援をお願いしたい。』と述べ、小川市長は『**今後、市民の意見を聞き、内容を精査していく。**』と答えました。

写真:林会長(右)からの提案書を受け取る小川市長(左)

② まちづくり構想案（土地利用計画）の概要（図②：「情報の公開」）

「まちづくり構想案」は準備会が「株式会社 長工」(三重県四日市市)に依頼して策定していたもので、その概要は次のとおりです。【以下　1)～4)の内容は準備会からの「提案書」を一部抜粋・編集したものです】

1)開発テーマ

育て・はぐくむ場づくり　＝〈持続可能な街づくり〉 → 【地方創生拠点】

2)開発コンセプト

21世紀　魁の街〈さきがけのまち〉

〈個人的視点〉
これからの働き方・生き方への課題
(健康・子育て・リモートワーク)
→ スローライフ

&

〈社会的視点〉
地域環境への課題
(省エネ・再エネ・分散型エネルギー)
→ スマートタウン化

暮らしにやさしい森の中の街
(仮称)「ハイウェイオアシス タウンセンター千曲」
～ モノ消費からコト消費の街づくり ～

(次のページ)

3）土地利用計画図

※本土地利用計画案は屋代地区土地区画整理設立準備会提案書を基に、一部抜粋・編集し作成したものです。
※本図は構想案であり各ゾーンの大きさ・内容など決定したものではありません。

『 21世紀 魁（さきがけ）の街 』 屋代地区まちづくり構想案（土地利用計画図）

商業ゾーン　約6.2ha

生活インフラ機能を重視し、日常の暮らしをサポートするゾーン。地域特性を取り入れた特色のある施設づくりを目指す。

・近郊生活者をターゲットに生活利便性を提供
・防災協定を通じ緊急物資・非常用電源・非常時ヘリポート提供等、地域防災拠点を目指す
・地域産業を支え、若い生産者を育てはぐくむエリア

住宅ゾーン　約4ha

コロナ以降の社会構造変革により新しい働き方・暮らしが求められている。主として移住を促す住宅ゾーンとして新しいライフスタイルを構築できる住宅を提供。

・リモートワーク対応住宅供給による子育て世帯の移住
・開発エリアで安心して働ける環境
・菜園付き住宅（クラインガルテン）

産業ゾーン　約9.1ha

人口増を目指し、公民が協力して雇用者数の多い製造業を中心に次世代型成長産業を誘致する。住民移住・移動の目的構造としても重要なゾーン。

・先端産業エリア：研究所や工房等の知的産業
・製造産業エリア：ITやAI等成長産業
・エコエネルギーエリア：分散型エコ・エネルギーの拠点

既存のアグリパーク・あんずの里物産館を活かし、民間活力を使って更なる機能増強を図る。隣接する県立歴史館や市内各所との連携による観光窓口として情報発信機能を設ける。

・見せることより参加体験する機能をより充実させる。
・情報案内館を設置し、市内温泉地・スポーツ施設、名所旧跡を案内

パークゾーン　約5.4ha

・上信越自動車道との出入口となるスマートインターチェンジを設置し、広域交流の玄関口とする。
・サービスステーションを商業ゾーンに近接させ、施設の利用頻度を高める。

広域交流ゾーン　約0.8ha

シビックセンター機能をより発展させ、市民生活をサポートするとともに市民交流の場として「学ぶ・育てる・遊ぶ・ふれあう」を実現。地域コミュニティの形成に寄与。

・学ぶ：メディア等と連携し、学ぶ領域を拡大させる知を通じたコミュニティの場
・遊ぶ：アート、スポーツ、趣味等生き方へのこだわりを受発信できる場
・ふれあう：センター全体を交流の場として全世代に活用される企画運営を目指す

文化ゾーン　約2.7ha

（次のページ）